

基本施策6 明日を築くまちづくり

施策6-1 健全な行財政運営

【 施策目標 】

- 住民が利用しやすい質の高い行政サービスを提供し、住民に信頼される行財政運営を目指します。
- ICT(情報通信技術)の活用を積極的に進め、効率良く業務を遂行できる組織体制の構築を目指します。



施策を取り巻く環境(現況と課題)

(行財政改革)

- 玖珠町では令和元年度から行財政基盤の強化を目的とした行財政改革に取り組んでおり、コスト削減等の「財政運営の改革」に加え、住民と行政の協働によるまちづくりや、行政サービスの向上を図る「行政サービス改革」を推進しています。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、生活・社会活動が制限される中で、「新しい生活様式」への対応が求められています。オンラインでの行政サービスの提供を推進する等、感染拡大防止の取組みに加え、外出困難な高齢者や障がい者への配慮も求められます。
- 急速に進展しているデジタル化に対応しながら、限られた職員や財源を最大限に活用した、スリムで効率的な行政組織を構築し、住民の多様なニーズに応えられる「新しい行政運営」のあり方が求められています。
- 財政においては、少子高齢化が進展する中、さらなる扶助費の増大や、将来的な生産年齢人口の減少に伴う税収の減少等により、今後も厳しさを増すことが想定されます。行財政改革を確実に実行し、持続可能な財政運営を行う必要があります。

(情報公開)

- 情報や公文書を誰もが自由に使えるようにする「オープンデータ」は、地方自治体の持つ重要な社会資源であり、誰もが使える情報として公開を行うよう、検討していく必要があります。
- 情報公開制度の活用と行政情報の積極的な提供を推進することで、行政の透明化と住民との情報共有を図り、住民協働のまちづくりを推進していく必要があります。





施策での取組

町の取組(重点施策)

6-1-1: 行財政改革の推進

- 行財政改革を確実に実施することにより、将来のまちづくりに必要な行財政基盤の確立を図ります。
- 情報通信技術の活用により、窓口や申請手続等の行政サービスをオンライン化、デジタル化し、利用者である住民や事業者にとっての利便性を高めます。また、新たな生活様式に対応し、行政手続に要する時間の削減とサービスの向上を図ります。
- 進展するICT環境に合わせたシステムの活用や更新を進め、さらなる業務の効率化、トータルコストの削減、行政サービスの向上を図ります。

6-1-2: 開かれた行政運営・情報公開・行政情報のオープンデータ化

- 情報公開制度の浸透を図るとともに、住民への積極的な情報提供を進め、開かれた行政運営を推進します。
- 新たな民間サービスの創出、地域経済の発展につながるよう、行政が保有する情報のオープンデータ化を図ります。

協働による取組(わたしたちができること)

- ・町の財政状況について関心をもつ。
- ・マイナンバーカードを取得し、オンラインでの行政手続を活用する。



関連する個別計画

(担当課は令和3年4月1日現在)

- 玖珠町行財政改革プラン

【総務課 行政班】



数値目標

No	指 標 名	現状値 の年度	現状値	目標値	
				令和7年 (2025)	令和12年 (2030)
1	オンライン申請可能な行政手続きの数	R2	2 業務	50 業務	100 業務
2	財政調整基金残高の確保	R1	9.27 億円	7 億円	7.5 億円



施策6-2 適正な公共施設等の維持管理

〔 施策目標 〕

■公共施設等の適正な再編や維持保全に取り組み、社会情勢に適応した持続可能なまちを目指します。



施策を取り巻く環境（現況と課題）

（公共施設の管理）

- 町内には、多くの公共施設があり、その多くが老朽化しています。社会情勢や財政収支により、すべての公共施設を維持、更新することは困難な状況にあります。そのため、玖珠町が所有する公共施設について、用途別に今後の公共施設での役割や機能を整理し、施設の集約化・複合化等について検討を進める必要があります。
- 各公共施設においては、施設に不具合が生じてから修繕等を行う「事後保全」ではなく、経過年数や劣化状況を踏まえ、事前に改修を行う「予防保全」に視点を置き、計画的に行うことで、公共施設を長持ちさせ、建物にかかる費用（ライフサイクルコスト）の削減を行う必要があります。



施策での取組

町の取組（重点施策）

6-2-1：公共施設の管理

- 公共施設の老朽化対策として、玖珠町公共施設等総合管理計画、公共施設個別管理計画に基づき、庁舎をはじめとする公共施設の維持管理、長寿命化、延床面積の縮減等を行い、公共施設の老朽化等に対応したまちづくりを推進します。
- 遊休施設利活用ガイドライン※に基づき、遊休施設となった土地・建物については、売却・貸付を推進し、資産の適正な管理を行います。
- 公共施設の機能確保、配置及び地域の実情に合った公共サービスが継続的に提供されるよう、施設の複合化等について検討する等、適正な維持管理に努めます。
- 玖珠町に必要とされる児童館などについては、新たに個別の施設を建設することが非常に困難な状況にあります。しかしながら、住民ニーズへの対応と福祉の向上を図るために、施設の整備を推進するのではなく、求められるサービスを提供できる環境の整備に努めます。

※遊休施設利活用ガイドライン：

玖珠町において中学校統合等により利活用等が求められる遊休施設があります。そのため「旧中学校跡地の利活用に向けた基本的な考え方」や「積極的な遊休施設利活用」を目的とした指針となるものです。





関連する個別計画

(担当課は令和3年4月1日現在)

- 玖珠町公共施設等総合管理計画
- 玖珠町公共施設等個別管理計画
- 玖珠町公営住宅等長寿命化計画
- 橋梁長寿命化修繕計画
- トンネル長寿命化修繕計画

【総務課 管財班】

【総務課 管財班】

【建設水道課 管理班】

【建設水道課 工務班】

【建設水道課 工務班】



数値目標

No	指 標 名	現状値 の年度	現状値	目標値	
				令和7年 (2025)	令和12年 (2030)
1	地方公会計における固定資産台帳に計上されている公共建築物	R2	248 施設	244 施設	235 施設



施策6-3 玖珠美山高校の存続の取組

【 施策目標 】

- 地元の中学生はもとより、他の地域から進学を目指す高校となるように、魅力化の向上を図ります。
- 玖珠美山高校が持つ魅力が、地域の中学生や保護者に認識されるよう努力します。



施策を取り巻く環境（現況と課題）

（県立高校支援）

- 大分県立玖珠美山高校は、平成27年4月県立玖珠農業高校と県立森高校が統合して誕生した「地域に唯一の高校」です。しかしながら、開校当初から定員割れが続いており、近年では地元中学生の進学率が50%以下と低迷しています。
- これまで、九重町と協働しての魅力化の支援策や、在校生の学力向上を目指して平成28年12月に公営塾「玖珠志学塾」を開設するなどの取組を行ってきました。その結果、公営塾については、進学率の目標を達成するなど、大きな成果をあげているものの、定員割れは改善されず定員も160名から120名（令和2年度）と大きく削減されることとなりました。
- そのため、これまでの高校支援の取組やその成果が、玖珠美山高校の他校にはない魅力として、地域の中学生や保護者に認識される必要があります。



施策での取組

町の取組（重点施策）

6-3-1：玖珠美山高校の魅力化

- 玖珠志学塾の取組の中で、高校と連携して生徒一人ひとりにあった学力向上の支援を行い、それぞれが進学や就職の目標を達成することで「高校の魅力化」を図っていきます。
- 玖珠美山高校の優れた取組や、「玖珠志学塾」など他校にない支援の取組を広く発信するとともに、「下宿生に対する助成」など郡外からの入学者の増加に向けた施策も積極的に進めていきます。



数値目標

No	指 標 名	現状値 の年度	現状値	目標値	
				令和7年 (2025)	令和12年 (2030)
1	郡内中学生の玖珠美山高校への進学率	R2	41.0%	60.0%	70.0%

